

25. シュツコンカスミソウ2回摘心9本仕立て法の開花特性

福島県農業試験場会津支場・平成10・11年度春夏作試験成績概要

1 部門名 花き—カスミソウ—整枝・選定 05—04—01080000

2 担当者 江川孝二・小林祐一・浅沼顕

3 要 旨

シュツコンカスミソウの2回摘心仕立て法は、慣行(1回摘心)法に比べ開花期間が広がる傾向がみられるため、仕立て茎の位置の違いにおける開花順序順位と切り花形質 について調査検討した。

(1) 2回摘心9本仕立て栽培における切り花形質は、15cm時摘心区の方が30cm時摘心区よりもややボリュームがあった。また‘ブリストル・フェアリー’は30cm時摘心区、‘ゴラン’は15cm時摘心区の方が一株当りの開花期間は短かった。

(2) 2回摘心仕立てにおける採花茎(二次分枝)の開花順位には、各一次分枝内で上位から下位へ開花する頂芽優勢の傾向が認められた。

(3) 以上のことから、慣行栽培(1回摘心)に対する開花期間の広がりとは、一次分枝に由来する生育のバラツキに加えて二次分枝間の頂芽優勢による影響であることがわかった。また2回摘心時期による開花期間の変化には品種間差異も認められた。